



# SSL ルールの使用を開始するには

ここでは、SSL ルールの作成、設定、管理、トラブルシューティングの概要を示します。

- [SSL ルールの概要 \(1 ページ\)](#)
- [SSL ルールのガイドラインと制限事項 \(1 ページ\)](#)
- [SSL ルールのトラフィック処理 \(5 ページ\)](#)
- [SSL ルールの条件 \(12 ページ\)](#)
- [SSL ルールのアクション \(15 ページ\)](#)
- [SSL ルールの管理 \(22 ページ\)](#)

## SSL ルールの概要

SSL ポリシー内に各種の SSL ルールを設定することで、それ以上のインスペクションなしでトラフィックをブロックする、トラフィックを復号せずにアクセスコントロールで検査する、あるいはアクセスコントロールの分析用にトラフィックを復号するなど、複数の管理対象デバイスをカバーしたきめ細かな暗号化トラフィックの処理メソッドを構築できます。

## SSL ルールのガイドラインと制限事項

SSL ルールを設定するときは、次の点に注意してください。SSL ルールを適切に設定するのは複雑なタスクですが、暗号化トラフィックを処理する有効な導入には不可欠のタスクです。ルールをどのように設定するかには、制御できない特定のアプリケーションの動作を含む、多くの要素が影響します。

さらに、ルールが互いをプリエンプトしたり、追加ライセンスが必要になったりすることがあります。また、ルールに無効な設定が含まれる可能性もあります。慎重に設定された SSL ルールは、ネットワークトラフィックの処理に必要なリソースの軽減にも寄与します。過度に複雑なルールを作成し、ルールを誤って順序付けすると、パフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。詳細については、[ルールのパフォーマンスに関するガイドライン](#)を参照してください。

## SSL ピニング

一部のアプリケーションでは、アプリケーション自体に元のサーバ証明書のフィンガープリントを埋め込む、SSL ピニングまたは証明書ピニングと呼ばれる技術が使用されます。そのため、[復号 - 再署名 (Decrypt - Resign)] アクションで SSL ルールを設定した場合は、アプリケーションが管理対象デバイスから再署名された証明書を受信すると、検証が失敗し、接続が中断されます。

SSL ピニングは中間者攻撃を避けるために使用されるため、防止または回避する方法はありません。次の選択肢があります。

- そのアプリケーション用に、[復号-再署名 (Decrypt - Resign)] ルールよりも順序が前の、[復号しない (Do Not Decrypt)] ルールを作成します。
- Web ブラウザを使用してアプリケーションにアクセスするようユーザに指示します。

ルールの順序の詳細については、[SSL ルールの順序](#)を参照してください。

アプリケーションが SSL ピニングを使用しているかどうかを判断するには、[SSL ピニングのトラブルシューティング](#)を参照してください。

## SSL ハートビート

一部のアプリケーションでは、[RFC6520](#) で定義されている Transport Layer Security (TLS) および Datagram Transport Layer Security (DTLS) プロトコルに対して、SSL ハートビートエクステンションが使用されます。SSL ハートビートは、接続がまだ有効であることを確認する方法を提供します。クライアントまたはサーバが指定されたバイト数のデータを送信し、応答を返すように相手に要求します。これが成功した場合は、暗号化されたデータが送信されます。

SSL ハードウェア アクセラレーションが有効になっている管理対象デバイスが SSL ハートビートエクステンションを使用するパケットを扱うときは、管理対象デバイスは SSL ポリシーの[復号できないアクション (Undecryptable Actions)]の[復号化エラー (Decryption Errors)]の設定で指定されたアクションを行います。

- ブロック (Block)
- リセットしてブロック (Block with reset)

アプリケーションが SSL ハートビートを使用しているかどうかを判断するには、[SSL ハートビートのトラブルシューティング](#)を参照してください。

管理対象デバイスが SSL ハードウェア アクセラレーションをサポートしていない場合、または SSL ハードウェア アクセラレーションが無効になっている場合は、ネットワーク分析ポリシー (NAP) で[ハートビートの最大長 (Max Heartbeat Length)]を設定して SSL ハートビートの処理方法を決定できます。詳細については、[SSL プリプロセッサ](#)を参照してください。

## SSL オーバーサブスクリプション

SSL オーバーサブスクリプションとは、管理対象デバイスが SSL トラフィックにより過負荷になっている状態です。すべての管理対象デバイスで SSL オーバーサブスクリプション

が発生する可能性があります。SSL ハードウェアアクセラレーションをサポートする管理対象デバイスでのみ処理方法を設定できます。

SSL ハードウェアアクセラレーションが有効になっている管理対象デバイスがオーバーサブスクライブされた場合、管理対象デバイスによって受信されるパケットの扱いは、SSL ポリシーの [復号できないアクション (Undecryptable Actions)] の [ハンドシェイクエラー (Handshake Errors)] の設定に従います。

- デフォルト アクションを継承する (Inherit default action)
- 復号しない (Do not decrypt)
- ブロック (Block)
- リセットしてブロック (Block with reset)

SSL ポリシーの [復号できないアクション (Undecryptable Actions)] の [ハンドシェイクエラー (Handshake Errors)] の設定が [復号しない (Do not decrypt)] で、関連付けられたアクセス コントロール ポリシーがトラフィックを検査するように設定されている場合は、インスペクションが行われます。復号は行われません。

大量のオーバーサブスクリプションが発生している場合は、次のオプションがあります。

- 管理対象デバイスをアップグレードして、SSL の処理能力を向上させます。
- SSL ポリシーを変更して、復号の優先順位が高くないトラフィック用に [復号しない (Do Not Decrypt)] ルールを追加します。

### 連邦情報処理標準 (FIPS) と SSL ハードウェア アクセラレーション

SSL ハードウェアアクセラレーションと連邦情報処理標準 (FIPS) が両方とも有効になっている場合は、次のオプションの接続が失敗します。

- サイズが 2048 バイト未満の RSA キー サイズ
- Rivest 暗号 4 (RC4)
- 単一データ暗号化 (単一 DES)
- Merkle–Damgard 5 (MD5)
- SSL v3

セキュリティ認定準拠モードで動作するように Firepower Management Center と管理対象デバイスを設定すると、FIPS が有効になります。このモードで動作しているときに接続を許可するには、SSL ハードウェアアクセラレーションを無効にするか、よりセキュアなオプションを採用するように Web ブラウザを設定します。

詳細については、次を参照してください。

- SSL ハードウェア アクセラレーションの有効化または無効化：[SSL ハードウェア アクセラレーション](#)。
- FIPS でサポートされている暗号方式：[SSL 設定について](#)。

- [セキュリティ認定準拠のモード](#)。
- [コモンクライテリア](#)。

## ユーザとグループ

ルールにグループまたはユーザを追加した後、そのグループまたはユーザを除外するようにレールの設定を変更すると、ルールは適用されなくなります。（レールを無効にする場合も同様です。）レールの詳細については、[レールの作成](#)を参照してください。

## SSL ハードウェア アクセラレーションによる HTTP 専用のパフォーマンス

トラフィックを復号しない管理対象デバイスで SSL ハードウェア アクセラレーションを有効にすると、パフォーマンスが低下します。（つまり、少なくとも 1 つの [復号 - 再署名 (Decrypt - Resign) ] ルールで SSL ポリシーがアクティブです。）SSL トラフィックを復号するデバイスでのみ、SSL ハードウェア アクセラレーションを有効にすることをお勧めします。

## ゾーン条件とパッシブ インターフェイス

[復号 - 再署名 (Decrypt-Resign) ] ルールを作成し、後でパッシブ インターフェイスでセキュリティ ゾーンを条件として追加した場合、ルールの横に警告アイコンが表示されます。パッシブ展開では証明書の再署名によるトラフィックの復号はできないので、パッシブ インターフェイスをルールから削除するか、またはルールアクションを変更するまで、このルールには効果がありません。

## SSL ルールのカテゴリ

SSL ポリシーに [復号-再署名 (Decrypt - Resign) ] アクションがあるにもかかわらず Web サイトが復号されない場合は、そのポリシーに関連付けられているルールの [カテゴリ (Category) ] タブ ページを確認します。

場合によっては、認証などの目的で Web サイトが別のサイトにリダイレクトされ、リダイレクト先のサイトの URL カテゴリが復号を試みているサイトとは異なることがあります。たとえば、gmail.com ([Web ベース電子メール (Web based email) ] カテゴリ) は認証のために accounts.gmail.com ([インターネットポータル (Internet Portals) ] カテゴリ) にリダイレクトされます。関連するすべてのカテゴリを必ず SSL ルールに含めます。

## ローカル データベースにない URL のクエリ

[復号-再署名 (Decrypt - Resign) ] ルールを作成し、ローカル データベースにカテゴリとレピュテーションがない Web サイトをユーザが参照すると、データが復号されないことがあります。一部の Web サイトはローカル データベースで分類されません。分類されない場合、その Web サイトのデータはデフォルトでは復号されません。

[システム (System) ] > [統合 (Integration) ] > [Cisco CSI] 設定を使用し、[不明 URL を Cisco CSI に問い合わせる (Query Cisco CSI for Unknown URLs) ] チェック ボックスをオンにすることで、この動作を制御できます。

このオプションの詳細については、[集合型セキュリティインテリジェンス通信の設定](#)を参照してください。

## 関連トピック

- [ルールとその他のポリシーの警告](#)
- [ルールのパフォーマンスに関するガイドライン](#)
- [SSL オーバーサブスクリプションのトラブルシューティング](#)
- [SSL ハートビートのトラブルシューティング](#)
- [SSL ピニングのトラブルシューティング](#)

# SSL ルールのトラフィック処理

システムは指定した順序で SSL ルールをトラフィックと照合します。ほとんどの場合、システムによる暗号化トラフィックの処理は、すべてのルールの条件がトラフィックに一致する最初の SSL ルールに従って行われます。こうした条件には、単純なものと同複雑なものがあります。セキュリティゾーン、ネットワークまたは地理的位置、VLAN、ポート、アプリケーション、要求された URL、ユーザ、証明書、証明書の識別名、証明書ステータス、暗号スイート、暗号化プロトコルバージョンなどによってトラフィックを制御できます。

各ルールにはアクションも設定されます。アクションにより、アクセス制御と一致する暗号化または復号化トラフィックに対してモニタ、ブロック、検査のいずれを行うかが決まります。システムがブロックした暗号化トラフィックは、それ以上のインスペクションが行われないことに注意してください。暗号化されたトラフィックおよび復号できないトラフィックは、アクセスコントロールを使用して検査します。ただし、一部のアクセスコントロールルールの条件では暗号化されていないトラフィックを必要とするため、暗号化されたトラフィックに一致するルール数が少なくなる場合があります。またデフォルトでは、システムは暗号化ペイロードの侵入およびファイルインスペクションを無効にしています。

次のシナリオは、インライン展開での SSL ルールによるトラフィックの処理を要約しています。



- **SSL ルール 3 : ブロック (SSL Rule 3: Block)** は、暗号化トラフィックを 4 番目に評価します。一致するトラフィックは、追加のインスペクションなしでブロックされます。一致しないトラフィックは、引き続き次のルールと照合されます。
- **SSL ルール 4 : 復号 - 既知のキー (SSL Rule 4: Decrypt - Known Key)** は、暗号化トラフィックを 5 番目に評価します。ネットワークへの着信トラフィックで一致したものは、ユーザのアップロードする秘密キーを使用して復号されます。復号トラフィックはその後、アクセスコントロールルールで評価されます。アクセスコントロールルールは、復号されたトラフィックと暗号化されていないトラフィックで同じ処理をします。この追加インスペクションの結果、システムがトラフィックをブロックする場合があります。他のすべてのトラフィックは、宛先への送信が許可される前に再暗号化されます。SSL ルールに一致しなかったトラフィックは、次のルールへと進められます。
- **SSL ルール 5 : 復号 - 再署名 (SSL Rule 5: Decrypt - Resign)** は、最後のルールです。トラフィックがこのルールに一致した場合、システムはアップロードされた CA 証明書を使用してサーバ証明書を再署名してから、中間者 (man-in-the-middle) としてトラフィックを復号します。復号トラフィックはその後、アクセスコントロールルールで評価されます。アクセスコントロールルールは、復号されたトラフィックと暗号化されていないトラフィックで同じ処理をします。この追加インスペクションの結果、システムがトラフィックをブロックする場合があります。他のすべてのトラフィックは、宛先への送信が許可される前に再暗号化されます。SSL ルールに一致しなかったトラフィックは、次のルールへと進められます。
- **SSL ポリシーのデフォルト アクション (SSL Policy Default Action)** は、どの SSL ルールにも一致しなかったすべてのトラフィックを処理します。デフォルトアクションでは、暗号化トラフィックをそれ以上のインスペクションなしでブロックするか、あるいは復号しないで、アクセスコントロールによる検査を行います。

## 暗号化トラフィック インспекションの設定

暗号化セッションの特性に基づいた暗号化トラフィックの制御および暗号化トラフィックの復号には、再利用可能な公開キー インフラストラクチャ (PKI) オブジェクトの作成が必要です。この情報の追加は、信頼できる認証局 (CA) の証明書の SSL ポリシーへのアップロード時、SSL ルール条件の作成時、およびプロセスでの関連オブジェクトの作成時に、臨機応変に実行できます。ただし、これらのオブジェクトを事前に設定しておく、不適切なオブジェクトが作成される可能性を抑制できます。

### 証明書とキー ペアによる暗号化トラフィックの復号

セッション暗号化に使用するサーバ証明書と秘密キーをアップロードして内部証明書オブジェクトを設定しておく、システムは着信する暗号化トラフィックを復号できます。[復号-既知のキー (Decrypt - Known Key)] アクションが設定された SSL ルールでそのオブジェクトを参照し、当該ルールにトラフィックが一致すると、システムはアップロードされた秘密キーを使用してセッションを復号します。

CA 証明書と秘密キーをアップロードして内部 CA オブジェクトを設定した場合、システムは発信トラフィックの復号もできます。[復号 - 再署名 (Decrypt - Resign)] アクションが設定さ

れた SSL ルールでそのオブジェクトを参照し、当該ルールにトラフィックが一致すると、システムはクライアントブラウザに渡されたサーバ証明書を再署名した後、中間者

(man-in-the-middle) としてセッションを復号します。オプションで、証明書全体ではなく自己署名証明書キーのみを置き換えることができます。この場合、ユーザはブラウザで自己署名証明書キー通知を確認します。

### 暗号化セッションの特性に基づいたトラフィック制御

システムによる暗号化トラフィックの制御は、セッションネゴシエートに使用されたサーバ証明書または暗号スイートに基づいて実行できます。複数の異なる再利用可能オブジェクトの 1 つを設定し、SSL ルール条件でオブジェクトを参照してトラフィックを照合することができます。次の表に、設定できる再利用可能なオブジェクトのタイプを示します。

設定する内容	暗号化トラフィック制御に使用する条件
1 つまたは複数の暗号スイートが含まれる暗号スイートのリスト	暗号化セッションのネゴシエートに使用される暗号スイートが、暗号スイート リストにある暗号スイートのいずれかに一致する。
組織が信頼する CA 証明書のアップロードによる信頼できる CA オブジェクト	この信頼できる CA は、次のいずれかにより、セッションの暗号化に使用されたサーバ証明書を信頼する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• CA が証明書を直接発行した。</li> <li>• サーバ証明書を発行した中間 CA に CA が証明書を発行した。</li> </ul>
サーバ証明書のアップロードによる外部証明書オブジェクト	セッションの暗号化に使用されたサーバ証明書が、アップロードされたサーバ証明書と一致する。
発行元の識別名または証明書サブジェクトを含む識別名オブジェクト	セッション暗号化に使用された証明書で、サブジェクトまたは発行元の共通名、国、組織、組織単位のいずれかが、設定された識別名と一致する。

### 関連トピック

[暗号スイート リスト](#)

[識別名オブジェクト](#)

[PKI オブジェクト](#)

## SSL ルールのコンポーネント

各 SSL ルールには、一意の名前以外にも、次の基本コンポーネントがあります。

### 状態 (State)

デフォルトでは、ルールは有効になっています。ルールを無効にすると、システムはネットワークトラフィックの評価にそのルールを使用せず、そのルールに対する警告とエラーの生成を停止します。

### 位置 (Position)

SSL ポリシーのルールには1から始まる番号が付いています。システムは、ルール番号の昇順で上から順に、ルールをトラフィックと照合します。モニタールールを除き、トラフィックが一致する最初のルールがそのトラフィックを処理するルールになります。

### 条件 (Conditions)

条件は、ルールが処理する特定のトラフィックを指定します。こうした条件では、セキュリティゾーン、ネットワークまたは地理的位置、VLAN、ポート、アプリケーション、要求された URL、ユーザ、証明書、証明書のサブジェクトまたは発行元、証明書ステータス、暗号スイート、暗号化プロトコルバージョンなどによってトラフィックを照合できます。使用する条件は、ターゲット デバイスのライセンスによって異なります。

### 操作 (Action)

ルールのアクションによって、一致したトラフィックの処理方法が決まります。暗号化された一致したトラフィックは、モニタ、許可、ブロック、または復号できます。復号および許可された暗号化トラフィックは、さらなる検査の影響下に置かれます。システムは、ブロックされた暗号化トラフィックに対してはインスペクションを実行しないことに注意してください。

### ログ

ルールのロギング設定によって、システムが記録する処理済みトラフィックのレコードを管理します。1つのルールに一致するトラフィックのレコードを1つ保持できます。SSL ポリシーでの設定に従って、システムが暗号化セッションをブロックするか、あるいは復号なしで渡すことを許可するときに、その接続をログに記録できます。アクセスコントロールルールに従ってより詳細な評価のために復号した場合の接続ログを記録するようにシステムを強制することも可能で、これはその後でどのような処理やトラフィックの検査がされるかとは無関係です。接続のログは、Firepower Management Center のデータベースの他に、システム ログ (Syslog) または SNMP トラップ サーバに記録できます。



#### ヒント

SSL ルールを適切に作成し順序付けするのは複雑なタスクです。ポリシーを慎重に計画しないと、ルールが他のルールをプリエンプション処理したり、追加のライセンスが必要となったり、ルールに無効な設定が含まれる場合があります。予期したとおりにトラフィックが確実に処理されるようにするために、SSL ポリシーインターフェイスには、ルールに関する強力な警告およびエラーのフィードバック システムが用意されています。

#### 関連トピック

[インターフェイス条件](#)

[ネットワーク条件](#)  
[VLAN 条件](#)  
[ポートおよび ICMP コードの条件](#)  
[アプリケーション条件 \(アプリケーション制御\)](#)  
[URL 条件 \(URL フィルタリング\)](#)  
[ユーザ条件、レلم条件、および ISE 属性条件 \(ユーザ制御\)](#)  
[ルールのパフォーマンスに関するガイドライン](#)  
[SSL ルールのガイドラインと制限事項 \(1 ページ\)](#)

## SSL ルールの作成および変更

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

### 手順

**ステップ 1** [ポリシー (Policies)] > [アクセス コントロール (Access Control)] > [SSL] を選択します。

**ステップ 2** SSL ポリシーの横にある編集アイコン (✎) をクリックします。

代わりに表示アイコン (🔍) が表示される場合、設定は先祖ドメインに属しており、設定を変更する権限がありません。

**ステップ 3** 次の選択肢があります。

- 新しいルールを追加するには、[ルールの追加 (Add Rule)] をクリックします。
- 既存のルールを編集するには、編集アイコン (✎) をクリックします。

**ステップ 4** 名前を入力します。

**ステップ 5** 上記に要約されるようにルールコンポーネントを設定します。次の設定をするか、デフォルト設定をそのまま使用することができます。

- ルールを有効にするかどうかを指定します。
- ルールの位置を指定します。 [SSL ルールの順序の評価 \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- [アクション (Action)] で、ルールのアクションを選択します。 [SSL ルールアクションの設定 \(20 ページ\)](#) を参照してください。
- ルールの条件を設定します。 [SSL ルールの条件タイプ \(13 ページ\)](#) を参照してください。

- [ログ (Logging) ] オプションを指定します。 [SSL ルールによる復号可能接続のロギング](#) を参照してください。

ステップ 6 [保存 (Save) ] をクリックします。

#### 次のタスク

- 設定変更を展開します。 [設定変更の展開](#) を参照してください。

## SSL ルールの順序の評価

SSL ルールを最初に作成するときに、ルールエディタの [挿入 (Insert) ] ドロップダウンリストを使用して、その位置を指定します。SSL ポリシーの SSL ルールには 1 から始まる番号が付いています。システムは、ルール番号の昇順で、SSL ルールを上から順にトラフィックと照合します。

ほとんどの場合、システムによるネットワークトラフィックの処理は、すべてのルールの条件がトラフィックに一致する最初の SSL ルールに従って行われます。モニタールール (トラフィックをログに記録するがトラフィックフローには影響しないルール) の場合を除き、システムは、そのトラフィックがルールに一致した後、追加の優先順位の低いルールに対してトラフィックを評価し続けることはありません。



#### ヒント

適切な SSL ルールの順序を指定することで、ネットワークトラフィックの処理に必要なリソースが削減され、ルールのプリエンプションを回避できます。ユーザが作成するルールはすべての組織と展開に固有のもですが、ユーザのニーズに対処しながらもパフォーマンスを最適化できるルールを順序付けする際に従うべきいくつかの一般的なガイドラインがあります。

番号ごとのルールの順序付けに加えて、カテゴリ別にルールをグループ化できます。デフォルトでは、3つのカテゴリ (管理者、標準、ルート) があります。カスタムカテゴリを追加できますが、システム提供のカテゴリを削除したり、それらの順序を変更したりすることはできません。

#### 関連トピック

[ルールのパフォーマンスに関するガイドライン](#)

## ルールカテゴリへの SSL ルールの追加

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

## 手順

**ステップ1** SSL ルールエディタの [挿入 (Insert) ] ドロップダウンリストで [カテゴリ (Into Category) ] を選択し、使用するカテゴリを選択します。

**ステップ2** [保存 (Save) ] をクリックします。

ヒント ルールを保存すると、そのカテゴリの最後に配置されます。

## 次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## 番号による SSL ルールの配置

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

## 手順

**ステップ1** SSL ルールエディタの [挿入 (Insert) ] ドロップダウンリストで、[ルールの上 (above rule) ] または [ルールの下 (below rule) ] を選択して、適切なルール番号を入力します。

**ステップ2** [保存 (Save) ] をクリックします。

ヒント ルールを保存すると、指定した場所に配置されます。

## 次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## SSL ルールの条件

SSL ルールの条件は、ルールで処理する暗号化トラフィックのタイプを特定します。条件には、単純なものと複雑なものがあり、ルールごとに複数の条件タイプを指定できます。トラフィックにルールが適用されるのは、トラフィックがルールの条件をすべて満たしている場合だけです。

ルールに対し特定の条件を設定しない場合、システムはその基準に基づいてトラフィックを照合しません。たとえば、証明書の条件が設定され、バージョンの条件が設定されていないルールは、セッションSSLまたはTLSのバージョンにかかわらず、セッションのネゴシエーションに使用されるサーバ証明書に基づいてトラフィックを評価します。

すべてのSSLルールには、一致する暗号化トラフィックに対して次の判定をする関連アクションがあります。

- 処理：まず第一に、ルールアクションはルールの条件に一致する暗号化トラフィックに対して、モニタ、信頼、ブロック、または復号化を行うかどうかを判定します。
- ロギング：ルールアクションは一致する暗号化トラフィックの詳細をいつ、どのようにログに記録するかを判定します。

SSLインスペクション設定では、次のように復号されたトラフィックの処理、検査、ログ記録を行います。

- SSLポリシーの復号できないアクションは、システムが復号できないトラフィックを処理します。
- ポリシーのデフォルトアクションは、モニタ以外のどのSSLルールの条件にも一致しないトラフィックを処理します。

システムが暗号化セッションを信頼またはブロックしたときに、接続イベントをログに記録できます。アクセスコントロールルールに従ってより詳細な評価のために復号した場合の接続ログを記録するようにシステムを強制することも可能で、これはその後でどのような処理やトラフィックの検査がされるかとは無関係です。暗号化セッションの接続ログには、セッションの暗号化に使用される証明書など、暗号化の詳細が含まれます。ただし次の場合は、接続終了イベントだけをログに記録できます。

- ブロックされた接続（[ブロック（Block）]、[リセットしてブロック（Block with reset）]）の場合、システムは即座にセッションを終了し、イベントを生成します。
- 信頼された接続（Do not decrypt）の場合、システムはセッション終了時にイベントを生成します。

## SSL ルールの条件タイプ

SSLルールを追加および編集するときは、ルールエディタ下部の左側にあるタブを使用して、ルール条件の追加と編集を行います。

表 1: SSL ルールの条件タイプ

条件	一致する暗号化トラフィック	詳細 (Details)
ゾーン	特定のセキュリティゾーンでインターフェイスを介したデバイスへの着信またはデバイスからの発信	セキュリティゾーンは、ご使用の導入ポリシーおよびセキュリティポリシーに準じた1つ以上のインターフェイスの論理グループです。ゾーン内のインターフェイスは、複数のデバイスにまたがって配置される場合があります。
ネットワーク	その送信元または宛先 IP アドレス、国、または大陸による	IP アドレスを明示的に指定できます。位置情報機能を使用して、その送信元または宛先の国または大陸に基づいてトラフィックを制御できます。
VLAN タグ	VLAN のタグ	システムは、最も内側の VLAN タグを使用して VLAN を基準にパケットを識別します。
ポート	その送信元または宛先ポートによる	TCP ポートに基づいて暗号化トラフィックを制御できます。
Users	セッションに関与するユーザによる	暗号化されたモニタ対象セッションの関連ホストにログインしている LDAP ユーザに基づいて暗号化トラフィックを制御できます。Microsoft Active Directory サーバから取得された個別ユーザまたはグループに基づいてトラフィックを制御できます。
アプリケーション	セッションで検出されたアプリケーションによる	タイプ、リスク、ビジネスとの関連性、カテゴリの基本的な特性に従って、フィルタ アクセスまたは暗号化セッションの各アプリケーションへのアクセスを制御できます。
カテゴリ	証明書サブジェクトの識別名に基づいてセッションで要求される URL	URL の一般分類とリスク レベルに基づいて、ネットワークのユーザがアクセスできる Web サイトを制限できます。
識別名	暗号化セッションのネゴシエートに使用されたサーバ証明書のサブジェクトまたは発行元の識別名	サーバ証明書を発行した CA またはサーバ証明書ホルダーに基づいて、暗号化トラフィックを制御できます。

条件	一致する暗号化トラフィック	詳細 (Details)
証明書 (Certificates)	暗号化セッションのネゴシエートに使用されるサーバ証明書	暗号化セッションのネゴシエート用にユーザのブラウザに渡されるサーバ証明書に基づいて、暗号化されたトラフィックを制御できます。
証明書のステータス (Certificate Status)	暗号化セッションのネゴシエートに使用されるサーバ証明書のプロパティ	サーバ証明書のステータスに基づいて、暗号化トラフィックを制御できます。
暗号スイート	暗号化セッションのネゴシエートに使用する暗号スイート	暗号化セッションのネゴシエート用にサーバで選択された暗号スイートに基づいて、暗号化トラフィックを制御できます。
バージョン	セッションの暗号化に使用される SSL または TLS のバージョン	セッションの暗号化に使用される SSL または TLS のバージョンに基づいて、暗号化トラフィックを制御できます。

#### 関連トピック

[ネットワーク ベースの SSL ルールの条件](#)

[ユーザベースの SSL ルールの条件](#)

[暗号化トラフィックでのレピュテーションベースの URL ブロッキング](#)

[サーバ証明書ベースの SSL ルール条件](#)

[ClientHello メッセージ処理](#)

## SSL ルールのアクション

### SSL ルール : モニタ アクション

[ モニタ (Monitor) ] アクションは暗号化トラフィック フローに影響を与えません。つまり、一致するトラフィックがただちに許可または拒否されることはありません。その代わりに、追加のルールが存在する場合はそのルールに照らしてトラフィックが照合され、信頼するか、ブロックするか、復号するかが決定されます。モニタルール以外の一致する最初のルールが、トラフィック フローおよび追加のインスペクションを決定します。さらに一致するルールがない場合、システムはデフォルト アクションを使用します。

モニタルールの主要な目的はネットワーク トラフィックを追跡することであるため、ルールのロギング設定や、あとで接続を処理するデフォルトのアクションにかかわらず、システムはモニタ対象トラフィックの接続終了イベントを自動的に Firepower Management Center データベースに記録します。

## SSL ルール：復号しないアクション

[復号しない (Do not decrypt) ]アクションは、アクセス コントロール ポリシーのルールおよびデフォルトアクションに従って暗号化トラフィックを評価するため転送します。一部のアクセス コントロール ルールの条件では暗号化されていないトラフィックを必要とするため、こうしたトラフィックに一致するルール数が少なくなる場合があります。暗号化トラフィックに対しては、侵入やファイル インスペクションなどのディープ インスペクションを行うことはできません。

[復号しない (Do not decrypt) ]ルールの一般的な理由は、以下のとおりです。

- SSL トラフィックの復号が法律によって禁止されている。
- 信頼できると判明しているサイトである。
- トラフィックを調べることによって中断できるサイト (Windows Update など) である。

詳細については、次を参照してください。 [復号できないトラフィックのデフォルト処理オプション](#)

## SSL ルール：ブロッキングアクション

[ブロック (Block) ]および[リセットしてブロック (Block with reset) ]アクションは、アクセス コントロールルールの [ブロック (Block) ]と [リセットしてブロック (Block with reset) ]アクションに類似しています。これらのアクションは、クライアントとサーバによる SSL 暗号化セッションの確立と暗号化トラフィックの転送を防止します。リセット付きブロックルールでは接続のリセットも行います。

ブロックされた暗号化トラフィックについては、設定された応答ページが表示されないのに注意してください。その代わりに、ユーザの要求する禁止された URL の接続は、リセットされるか、またはタイムアウトになります。



### ヒント

パッシブまたはインライン (タップモード) 展開では、デバイスがトラフィックを直接検査しないので、[ブロック (Block) ]と [リセットしてブロック (Block with reset) ]アクションを使用できないことに注意してください。パッシブまたはインライン (タップモード) インターフェイスを含むセキュリティゾーン条件内で、[ブロック (Block) ]と [リセットしてブロック (Block with reset) ]アクションを使用したルールを作成すると、ポリシー エディタでルールの横に警告アイコン (⚠) が表示されます。

### 関連トピック

[HTTP 応答ページについて](#)

## SSL ルール : 復号アクション

[復号 - 既知のキー (Decrypt - Known Key) ]および[復号 - 再署名 (Decrypt - Resign) ]アクションは、暗号化トラフィックを復号します。復号されたトラフィックは、アクセスコントロールを使用して検査されます。アクセスコントロールルールは、復号されたトラフィックと暗号化されていないトラフィックで同じ処理をします。ここではデータの検査に加えて、侵入、禁止ファイル、マルウェアの検出とブロックができます。システムは、許可されたトラフィックを再暗号化してから宛先に渡します。

### SSL ルールの復号メカニズムとガイドライン

[復号 - 既知のキー (Decrypt - Known Key) ]アクションを設定した場合は、1つまたは複数のサーバ証明書と秘密キーペアをアクションに関連付けることができます。トラフィックがルールに一致して、トラフィックの暗号化に使用された証明書とアクションに関連付けられた証明書が一致した場合、システムは適切な秘密キーを使用してセッションの暗号化と復号キーを取得します。秘密キーへのアクセスが必要なため、このアクションが最も適しているのは、組織の管理下にあるサーバへの入力トラフィックを復号する場合です。

同様に [復号 - 再署名 (Decrypt - Resign) ]アクションには、1つの認証局証明書と秘密キーを関連付けることができます。トラフィックがこのルールに一致した場合、システムはCA証明書を使用してサーバ証明書を再署名してから、中間者 (man-in-the-middle) として機能します。ここでは、1つはクライアントと管理対象デバイスの間、もう1つは管理対象デバイスとサーバの間をつなぐ、2つのSSLセッションが作成されます。各セッションにはさまざまな暗号セッションの詳細が含まれており、システムはこれを使用することでトラフィックの復号と再暗号化が行えます。このアクションは、証明書の秘密キーを各自の管理下にあるキーに置き換えてセッションキーを取得するため、発信トラフィックに適しています。

サーバ証明書の再署名では、証明書の公開キーをCA証明書の公開キーに置き換えるか、あるいは証明書全体が置き換えられます。通常、サーバ証明書全体を置き換える場合は、SSL接続が確立された時点で、証明書が信頼できる認証局によって署名されていないことがクライアントブラウザで警告されます。ただし、そのCAをクライアントブラウザで信頼できることがポリシーに設定されている場合、ブラウザは証明書が信頼できないことについて警告しません。オリジナルのサーバ証明書が自己署名の場合、システムは証明書全体を置き換えて再署名するCAを信頼しますが、ユーザのブラウザは証明書が自己署名されていることを警告しません。この場合、サーバ証明書の公開キーを交換するだけで、クライアントブラウザは証明書が自己署名であることを警告します。

[復号 - 再署名 (Decrypt - Resign) ]アクションをルールに設定すると、ルールによるトラフィックの照合は、設定されている他のルール条件に加えて、参照する内部CA証明書の署名アルゴリズムタイプに基づいて実施されます。各 [復号 - 再署名 (Decrypt - Resign) ]アクションにはそれぞれ1つのCA証明書が関連付けられるので、異なる署名アルゴリズムで暗号化された複数のタイプの発信トラフィックを復号化するSSLルールは作成できません。また、ルールに追加する暗号スイートと外部証明書のオブジェクトのすべては、関連するCA証明書の暗号化アルゴリズムタイプに一致する必要があります。オプションで、証明書全体ではなく自己署名証明書キーのみを置き換えることができます。この場合、ユーザはブラウザで自己署名証明書キー通知を確認します。

たとえば、楕円曲線暗号（EC）アルゴリズムで暗号化された発信トラフィックが [復号 - 再署名（Decrypt - Resign）] ルールに一致するのは、アクションが EC ベースの CA 証明書を参照している場合だけです。証明書と暗号スイートのルール条件を作成する場合は、EC ベースの外部証明書と暗号スイートをルールに追加する必要があります。同様に、RSA ベースの CA 証明書を参照する [復号 - 再署名（Decrypt - Resign）] ルールは、RSA アルゴリズムで暗号化された発信トラフィックとのみ一致します。EC アルゴリズムで暗号化された発信トラフィックは、設定されている他のルール条件がすべて一致したとしても、このルールには一致しません。

次の点に注意してください。

- SSL 接続の確立に使用される暗号スイートが Diffie-Hellman Ephemeral（DHE）または楕円曲線 Diffie-Hellman Ephemeral（ECDHE）キー交換アルゴリズムを適用している場合、パッシブ展開では [復号 - 既知のキー（Decrypt - Known Key）] アクションを使用できません。SSL ポリシーのターゲットデバイスにパッシブまたはインライン（タップモード）インターフェイスがあり、そこに含まれる [復号 - 既知のキー（Decrypt - Known Key）] ルールで DHE または ECDHE の暗号スイート条件が使われている場合、ルールの横に情報アイコン（）が表示されます。パッシブまたはインライン（タップモード）インターフェイスを含む SSL ルールに後からゾーン条件を追加すると、警告アイコン（）が表示されます。
- デバイスはトラフィックを直接検査しないため、パッシブまたはインライン（タップモード）展開では [復号 - 再署名（Decrypt - Resign）] アクションを使用できません。セキュリティゾーン内にパッシブまたはインライン（タップモード）インターフェイスを含む [復号 - 再署名（Decrypt - Resign）] アクションを指定してルールを作成すると、ポリシーエディタでルールの横に警告アイコン（）が表示されます。SSL ポリシーのターゲットデバイスにパッシブまたはインライン（タップモード）インターフェイスがあり、そこに [復号 - 再署名（Decrypt - Resign）] ルールが含まれる場合、ルールの横に情報アイコン（）が表示されます。パッシブまたはインライン（タップモード）インターフェイスを含む SSL ルールに後からゾーン条件を追加すると、警告アイコン（）が表示されます。パッシブまたはインライン（タップモード）インターフェイスを含むデバイスに、[復号 - 再署名（Decrypt - Resign）] ルールを含む SSL ポリシーを適用した場合、このルールに一致する SSL セッションはすべて失敗します。
- サーバ証明書の再署名に使用する CA をクライアントが信頼していない場合、証明書が信頼できないという警告がユーザに出されます。これを防ぐには、クライアントの信頼できる CA ストアに CA 証明書をインポートします。または、組織にプライベート PKI がある場合は、組織の全クライアントにより自動的に信頼されるルート CA が署名する中間 CA 証明書を発行して、その CA 証明書をデバイスにアップロードすることもできます。
- SSL ルールの暗号スイート条件に匿名の暗号スイートを追加できますが、次の点に注意してください。
  - システムは ClientHello 処理中に自動的に匿名の暗号スイートを削除します。ルールを使用するシステムでは、ClientHello の処理を防止するために SSL ルールも設定する必要があります。詳細については、[SSL ルールの順序](#)を参照してください。

- システムは匿名の暗号スイートで暗号化されたトラフィックを復号化できないため、ルールで[復号-再署名 (Decrypt-Resign) ]または[復号-既知のキー (Decrypt- Known Key) ]アクションは使用できません。
- クライアントと管理対象デバイスの中に HTTP プロキシがあって、クライアントとサーバが CONNECT HTTP メソッドを使用してトンネル SSL 接続を確立する場合、システムはトラフィックを復号化できません。システムによるこのトラフィックの処理法は、ハンドシェイクエラー (**Handshake Errors**) の復号できないアクションが決定します。
- システムは、管理対象デバイス上のキャプティブポータルユーザの Web ブラウザとキャプティブポータルのデーモン間のキャプティブポータルの認証接続でトラフィックを復号化できません。
- [復号-既知のキー (Decrypt - Known Key) ]アクションを指定して SSL ルールを作成した場合は、[識別名 (Distinguished Name) ]や[証明書 (Certificate) ]条件による照合はできません。ここでの前提は、このルールがトラフィックと一致する場合、証明書、サブジェクト DN、および発行元 DN は、ルールに関連付けられた証明書とすでに一致済みであることです。
- 内部 CA オブジェクトを作成して証明書署名要求 (CSR) の生成を選択した場合は、オブジェクトに署名付き証明書をアップロードするまで、この CA を [復号-再署名 (Decrypt - Resign) ]アクションに使用できません。
- [復号-再署名 (Decrypt - Resign) ]アクションをルールに設定し、1 つまたは複数の外部証明書オブジェクトまたは暗号スイートで署名アルゴリズムタイプの不一致が生じた場合、ポリシーエディタでルールの横に情報アイコン (ℹ) が表示されます。すべての外部証明書オブジェクトまたはすべての暗号スイートで署名アルゴリズムタイプの不一致が生じた場合、ポリシーのルールの横には警告アイコン ([⚠]) が表示され、SSL ポリシーに関連付けたアクセスコントロールポリシーは適用できなくなります。
- ブラウザが証明書ピンングを使用してサーバ証明書を確認する場合は、サーバ証明書に再署名しても、このトラフィックを復号できません。このトラフィックを許可するには、サーバ証明書の共通名または識別名と一致させるために、[復号しない (Do not decrypt) ]アクションを使用して SSL ルールを設定します。
- [インタラクティブブロック (Interactive Block) ]または[リセット付きインタラクティブブロック (Interactive Block with reset) ]アクション付きのアクセスコントロールルールと復号化トラフィックが一致する場合、システムは応答ページを表示します。
- インライン正規化プリプロセッサで[余剰ペイロードの正規化 (Normalize Excess Payload) ]オプションを有効にすると、プリプロセッサによる復号トラフィックの標準化時に、パケットがドロップされてトリミングされたパケットに置き換えられる場合があります。これにより SSL セッションは終了しません。トラフィックが許可された場合、トリミングされたパケットは SSL セッションの一部として暗号化されます。

## 関連トピック

[PKI オブジェクト](#)

## SSL ルールアクションの設定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

### 手順

**ステップ 1** SSL ポリシー エディタには、次のオプションがあります。

- 新しいルールを追加するには、[ルールを追加 (Add Rule)] をクリックします。
- 既存のルールを編集するには、編集アイコン (✎) をクリックします。

**ステップ 2** [アクション (Action)] ドロップダウン リストからルールアクションを選択します。

- 暗号化トラフィックをブロックするには、[ブロック (Block)] を選択します。
- 暗号化トラフィックをブロックし、接続をリセットするには、[リセットでブロック (Block with reset)] を選択します。
- 着信トラフィックの復号の詳細については、[復号 - 既知のキーアクションの設定 \(21 ページ\)](#) を参照してください。
- 発信トラフィックの復号の詳細については、[復号-再署名アクションの設定 \(21 ページ\)](#) を参照してください。
- 暗号化トラフィックを記録するには、[モニタ (Monitor)] を選択します。
- 暗号化トラフィックを復号しない場合は、[復号化しない (Do Not Decrypt)] を選択します。

**ステップ 3** [追加 (Add)] をクリックします。

### 次のタスク

- [ネットワークベースの SSL ルールの条件](#)、[ユーザベースの SSL ルールの条件](#)、[レピュテーションベースの SSL ルール条件](#)、および[サーバ証明書ベースの SSL ルール条件](#)の説明に従ってルール条件を設定します。
- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## 復号 - 再署名アクションの設定

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

### 手順

- ステップ 1 SSL ルールエディタで、[アクション (Action)] リストから [復号 - 再署名 (Decrypt-Resign)] を選択します。
- ステップ 2 リストから内部 CA 証明書のオブジェクトを選択します。
- ステップ 3 証明書全体ではなく証明書公開キーのみを置き換えるには、[キー置換 (Replace Key)] [キー置換のみ (Replace Key Only)] をオンにする必要があります。公開キーのみを置き換えようとしているため、自己署名証明書の通知がユーザのブラウザに表示されます。
- ステップ 4 [追加 (Add)] をクリックします。

### 次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## 復号 - 既知のキー アクションの設定

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

### 手順

- ステップ 1 SSL ルールエディタで、[アクション (Action)] ドロップダウンリストから、[復号 - 既知のキー (Decrypt - Known Key)] を選択します。
- ステップ 2 [クリックして復号証明書を選択 (Click to select decryption certs)] フィールドをクリックします。
- ステップ 3 [使用可能な証明書 (Available Certificates)] リストの 1 つ以上の内部証明書のオブジェクトを選択し、[ルールに追加 (Add to Rule)] をクリックします。
- ステップ 4 [OK] をクリックします。

ステップ5 [追加 (Add)] をクリックします。

#### 次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## SSL ルールの管理

SSL ポリシー エディタの [ルール (Rules)] タブでは、ポリシー内の SSL ルールの追加、編集、検索、移動、有効化、無効化、削除、およびその他の管理を行うことができます。

### SSL ルール検索

スペースおよび印刷可能な特殊文字を含む英数字文字列を使用して、SSL ルールのリストで一致する値を検索できます。この検索では、ルール名およびルールに追加したルール条件が検索されます。ルール条件の場合は、条件タイプ（ゾーン、ネットワーク、アプリケーションなど）ごとに追加できる任意の名前または値が検索照合されます。これには、個々のオブジェクト名または値、グループオブジェクト名、グループ内の個々のオブジェクト名または値、およびリテラル値が含まれます。

検索文字列のすべてまたは一部を使用できます。照合ルールごとに、一致する値のカラムが強調表示されます。たとえば、100Bao という文字列のすべてまたは一部を基準に検索すると、少なくとも、100Bao アプリケーションが追加された各ルールの [アプリケーション (Applications)] 列が強調表示されます。100Bao という名前のルールもある場合は、[名前 (Name)] 列と [アプリケーション (Applications)] 列の両方が強調表示されます。

1つ前または次の照合ルールに移動することができます。ステータスメッセージには、現行の一致および合計一致数が表示されます。

複数ページのルールリストでは、どのページでも一致が検出される可能性があります。最初の一致が検出されたのが最初のページではない場合は、最初の一致が検出されたページが表示されます。最後の一致が現行の一致となっている場合、次の一致を選択すると、最初の一致が表示されます。また、最初の一致が現行の一致となっている場合、前の一致を選択すると、最後の一致が表示されます。

### SSL ルールの検索

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

## 手順

**ステップ 1** SSL ポリシー エディタで、[検索ルール (Search Rules)] プロンプトをクリックし、検索文字列を入力してから Enter キーを押します。

**ヒント** 一致する値を含むルールのカラムが強調表示されます。表示されている (最初の) 一致は、他とは区別できるように強調表示されます。

**ステップ 2** 目的のルールを見つけます。

- 照合ルールの間を移動する場合は、次の一致アイコン (▼) または前の一致アイコン (▲) をクリックします。
- ページを更新し、検索文字列および強調表示をクリアするには、クリアアイコン (✖) をクリックします。

## SSL ルールの有効化と無効化

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

作成した SSL ルールは、デフォルトで有効になっています。ルールを無効にすると、システムはネットワーク トラフィックの評価にそのルールを使用せず、そのルールに対する警告とエラーの生成を停止します。SSL ポリシーのルールリストを表示すると、無効なルールはグレー表示されますが、変更は可能です。またはルール エディタを使用して SSL ルールを有効または無効にできることに注意してください。

## 手順

**ステップ 1** SSL ポリシー エディタで、ルールを右クリックしてルール状態を選択します。

**ステップ 2** [保存 (Save)] をクリックします。

## 次のタスク

- 設定変更を展開します。[設定変更の展開](#)を参照してください。

## SSL ルールの移動

スマートライセンス	従来の特許	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

### 手順

**ステップ 1** SSL ポリシー エディタで、各ルール of 空白部分をクリックしてルールを選択します。

**ステップ 2** ルールを右クリックして、[切り取り (Cut)] を選択します。

**ステップ 3** 切り取ったルールを貼り付けたい位置に隣接するルールの空白部分を右クリックし、[上に貼り付け (Paste above)] または [下に貼り付け (Paste below)] を選択します。

**ヒント** 2 つの異なる SSL ポリシーの間では、SSL ルールのコピー アンド ペーストはできません。

**ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

### 次のタスク

- 設定変更を展開します。 [設定変更の展開](#) を参照してください。

## 新しい SSL ルール カテゴリの追加

スマートライセンス	従来の特許	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	すべて (NGIPSv を除く)	任意 (Any)	Admin/Access Admin/Network Admin

余計なポリシーを作成することなくルールをさらに整理するため、標準ルールとルートルールのカテゴリの間にカスタムカテゴリを作成できます。追加したカテゴリは、名前変更と削除ができます。これらのカテゴリの移動はできませんが、ルールのカテゴリ間およびカテゴリ内外への移動は可能です。

### 手順

**ステップ 1** SSL ポリシー エディタで、[カテゴリの追加 (Add Category)] をクリックします。

**ヒント** ポリシーにルールがすでに含まれている場合は、既存のルールの行の空白部分をクリックして、新しいカテゴリを追加する前にその位置を設定できます。既存のルールを右クリックし、[新規カテゴリの挿入 (Insert new category)] を選択することもできます。

**ステップ 2** [名前 (Name)] を入力します。

**ステップ 3** 次の選択肢があります。

- 最初の [挿入 (Insert)] ドロップダウンリストから [カテゴリの上 (above Category)] を選択した後、2 番目のドロップダウンリストからカテゴリを選択します。ここで選択したカテゴリの上にルールが配置されます。
- ドロップダウンリストから [ルールの下 (below rule)] を選択し、既存のルール番号を入力します。このオプションが有効なのは、ポリシーに少なくとも 1 つのルールが存在する場合のみです。
- ドロップダウンリストから [ルールの上 (above rule)] を選択し、既存のルール番号を入力します。このオプションが有効なのは、ポリシーに少なくとも 1 つのルールが存在する場合のみです。

**ステップ 4** [OK] をクリックします。

**ヒント** 削除するカテゴリに含まれるルールは、その上にあるカテゴリに追加されます。

**ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。

---

